



## 5年生道徳の授業

本日5日(木)の5時間目に、5年1組で道徳の研究授業が行われました。教科書の中の「名前のない手紙」というお話でした。

あらすじ：1番仲良しの光子をはじめとして、クラスの女子が「わたし」とロを利いてくれなくなってしまう。人気者の光子が女子全員に「わたし」と仲良くしてはいけないという指示を出したことを知る。その後「わたし」は名前のない手紙をもらい元気づけられる。そして、転校してしまう吉野さんがみんなの前で「わたしに」に対して無視をしてしまったことについて謝る。すると、教室のあちこちから、「わたし」に対して謝る声が挙がり、「わたし」の仲間外れがなくなるという話である。

今回の授業のめあては、「正義を実現するために大切なことを考えよう」というものです。仲間外れにされた「わたし」が、名前の無い手紙を何度も読み返すときの気持ちに共感させながら、「手紙をもらったら嬉しいか・嬉しくないか」と子供たちに問いかけます。このとき、「嬉しい」と「嬉しくない」かのどちらの立場かをタブレットを使って、みんなで共有し、その理由を出し合いました。すると、子供たちは「手紙自体は嬉しい。」「結局、手紙を出している人も仲間外れをしている人と同じ。」「手紙は助けてはくれない。『わたし』は罪悪感を減らすための言い訳をしているのでは？」と素直に思いを出していきます。そうすることで、自分の考えとは違う友達の心に気づき多面的・多角的な見方をもつことに繋がります。そして「正義を実現するためにはどうすればいいか？」と今回の子供たちに見つめさせたい心に迫っていきます。子供たちは「その人がやって欲しいとことをやってあげる。」「いじめられている人がいたら、そのことをわかって、被害者・加害者のどちらの立場に立って司会の様にする(仲裁して話し合わせる)。」「正義を実現することの大切さや、その実現の難しさに気付いていきます。

今回の授業は「帯西イエロー」の心「公平・公正な態度で正義の実現を」に向かって子供たちの心を耕しながら、「集団や社会の中で正義を実現させるためにはどんなことが大切だろう」ということについて一人一人が考えていきました。

今回の道徳の授業について、子供たちが帰った後に、全職員で授業研究会を行いました。道徳科に精通している外部からの講師も招き、職員一人一人が授業への疑問を出し合ったり、改善点を述べ合ったりしました。講師の先生も、子供たちが意見を素直に発言する姿に感心されていました。一つ一つの疑問点をみんなで考えることで、教師自身の学びとなり、力となりました。これからも全職員で、子供たちの道徳性を高める授業づくりを考えていこうと思います。

今回も、子供たちと職員とで帯西イエローの心を醸成する方法について、しっかり考えることができる研究授業となりました。今回の授業は5年部でも共通実践を行い、5年生全員の心が育ちました。5年1組の皆さん、貴重な道徳の授業を共有させていただき、ありがとうございました。

